

今、私たちが住む地球には、いろいろな環境問題が起きています。

かんきょう 環境問題について調べて、自分にできることを実行しましょう。

海ごみについて考える…私たちの海を守るには？

海ごみが国境を越えた問題に

いま、日本全国の海岸にさまざまな種類の海ごみが、大量に漂着しています。海ごみは、一度海に流れ込むと広範囲に広がって回収が難しく、繰り返し漂着します。

中国・韓国・台湾などから日本の海岸に流れ着く物もある一方で、日本から太平洋を渡って海外に流れていくごみもあります。

私たちの暮らしなどから海に流れ出る海ごみは、日本だけでなく、国境を越えた環境問題として、世界中で大きな問題となっています。

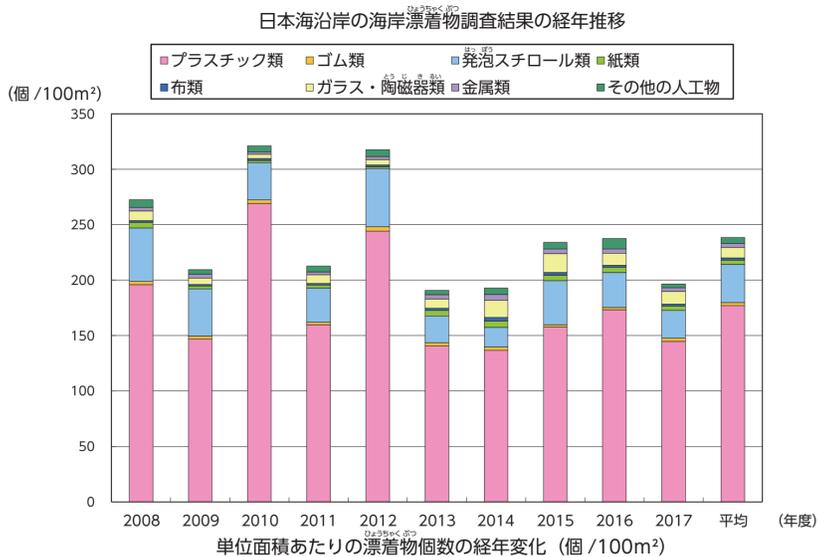
海ごみは、大きく分けると以下の3つの種類に分けられます。



海岸漂着物の多くを占めるのは、プラスチック

プラスチックは、容器、袋、シート、フィルムなどとして、生活のあらゆる場面で使われています。そのうち、適切にリサイクルや処分されなかった物が海に流れ、海ごみになっています。

日本海沿岸の海岸漂着物調査では、漂着物の個数のほぼ7割以上をプラスチックが占めています。

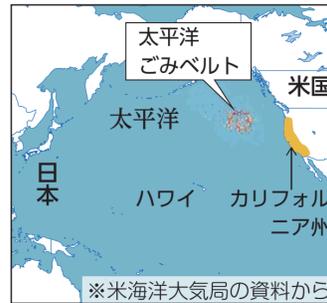


2050年には海のプラスチックごみの量は どのようになるかな？

「世界のプラスチック生産量は過去50年で20倍以上に急増、今後20年間でさらに倍増する見込み。毎年少なくとも800万t分のプラスチックが海に流出。2050年までには海のプラスチックの重量が魚の重量を上回る。」

2016年1月に明らかにされた世界経済フォーラム(ダボス会議)での報告に、世界中が驚きました。

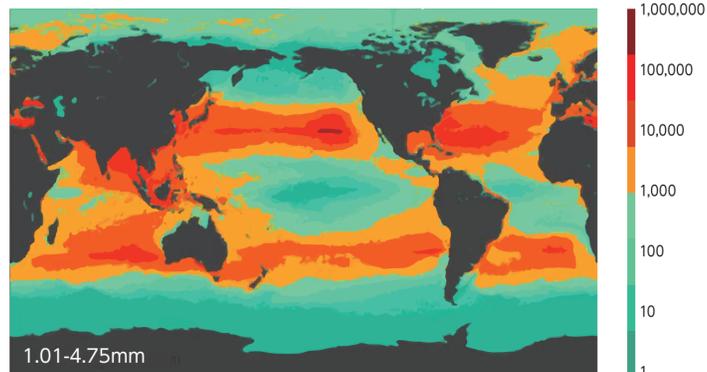
アメリカ・カリフォルニア州沖からハワイ沖にかけての北太平洋には、漂流するプラスチックごみが集まる「太平洋ごみベルト」と呼ばれる海域があることが知られています。その重量は約8万t、太平洋ごみベルトの面積は160万km²で、日本の面積の4倍以上にもなるといわれています。



数百年も海をただよう、「マイクロプラスチック」とは？

海に流れこんだプラスチックは、紫外線や波の力でこわれて、年月とともに細くなっていきます。大きさ5mm以下の微細なプラスチック=マイクロプラスチックになると、回収はほとんど不可能で、数百年も海をただようといわれています。また、海鳥や魚だけでなく、サンゴや動物プランクトンが飲みこんだ例も報告されています。

マイクロプラスチックは、油や有害物質を吸着しやすいことから、生態系への影響が心配されています。



海ごみに関する世界や日本の取組

◆国連 持続可能な開発目標(SDGs) 2015年9月

SDGsは、2015年9月に国連サミットで採択された、持続可能な世界を目指すための開発目標です。17の目標の一つに、2025年までに、海ごみなどによる海洋汚染を防止し大幅に削減することがあげられています。



◆国連環境総会 2017年12月

海洋プラスチックごみ及びマイクロプラスチックに関する決議を採択しました。

◆G20 2017年7月 ハンブルクサミット

G20では初めて海ごみの問題が首脳宣言で取り上げられ、発生抑制、廃棄物管理体制、調査などを掲げた「海洋ごみに対するG20行動計画」の立ち上げに合意しました。

世界中でレジ袋やプラスチック容器の規制が進んでいます

多くの国でレジ袋などの規制が進んでいます。また、使い捨てプラスチック容器の廃止を決めた国もあります。日本でも、レジ袋の有料化を義務付けるための国の検討が始まっています。

「生分解性プラスチック」が使われ始めています

生分解性プラスチックは、微生物などの働きで分解され、自然にかえるプラスチックです。使い捨てプラスチック製のストローや容器、レジ袋を、生分解性の製品に切り替えるよう、国も後押ししています。

自分にできることを考えてみよう



シャンプーや洗剤類は詰め替えパック入りを購入し、容器を再利用しよう



街や川、海などの清掃活動に参加しよう